

2022年度「専門特殊研究」研究会一覧

文学学術院

2022年度実施の専門特殊研究会は以下のとおりです。

「科目登録の手引き」も確認してください。

なお、本内容はWebシラバスには掲載されていませんので、ご承知おきください。

【専門特殊研究について】

高度な原典購読や資料解読、数理系の問題演習など、少人数による上級者向けの研究会での成果を、学部での履修単位として認定するための科目です。

<履修について>

- 1科目2単位とし、合計8単位を上限に卒業必要単位に算入されます。
- 年間における登録制限単位数、科目数には算入しません。
- 同一の学期に2研究会（4単位）までの単位認定が可能です。
- 入学後2学期目から卒業見込み学期の前学期まで履修することができます。
- 本研究会は科目登録の結果通知には反映されません。

<成績について>

- 学期終了後、一定の条件を満たした研究会において、十分な成果を収めた学生についてのみ、単位の認定を行います。
- 評価は次学期の初めに行われ、実際に参加した次の学期の単位となります。
- 合格の場合、成績証明書には、「専門特殊研究（主題・担当教員名） 配当年度 配当学期」と記載します。

★各研究会の内容に関するお問い合わせは、以下の担当教員まで直接お問い合わせください。

（以下、学期・曜日・時限・主題名五十音順）

春学期	木	6時限	実施曜日・時限 の特記事項
参加可能年次 2年以上	主題 和歌テキスト原典講読(新古今研究会)1		担当教員 兼築 信行

研究概要

中古～中世の和歌テキストの原典を輪読する。対象作品は参加者と相談のうえ決定する。和歌読解の基本や、データベースなどツールの利用法についても手ほどきを行うので、研究の初心者も、和歌に関心がある人ならば、安心して参加して欲しい。

使用文献

すべてプリントにより提供する。

活動記録の内容、提出方法

輪読へ参加し、1回以上の発表、ならびに質疑や議論への参加を評価する。

受講者選考方法

担当教員宛にメール knck■waseda.jp (■=@) で申し込むこと。その際に、和歌に関する関心について記述して欲しい。原則として受講希望を拒否することはない。

備考

春学期**金****2時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

フランス現代哲学(原典)講読

担当教員

西山 達也

研究概要

20世紀フランスを代表する哲学者エマニュエル・レヴィナス(1905-1995)のテキストをフランス語原典で講読する。レヴィナスはエドムント・フッサールによって創始された現象学がフランスに導入される際にきわめて重要な役割を果たした哲学者であるが、初期の思想から『全体性と無限』(1961年)に至るまでの思想変遷はこれまで十分に解明されてこなかった。近年、1940-50年代の草稿群が刊行されるなどして、レヴィナス哲学の新たな姿が明らかになりつつある。本研究では、レヴィナスが第二次世界大戦後に自らの哲学的マニフェストとして刊行した著作である『実存から実存者へ』を熟読することで、この哲学者の思考に入門するとともに、フランス語で哲学することの愉しみを共有したい。

使用文献

De l'existence à l'existant [1947], Vrin, Edition de poche, 2013

活動記録の内容、提出方法

参加者各自が作成した翻訳を持ち寄り、比較、検討、解釈する。授業への積極的な参加が単位習得の条件となる。

受講者選考方法

受講希望者は2022年4月8日(金)までに参加を希望するというメールを以下のアドレス宛に送付すること。メールアドレス:t-nishiyama@waseda.jp

備考**春学期****金****3時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

ドイツ近代哲学(原典)講読

担当教員

御子柴 善之

研究概要

イマヌエル・カント(1724-1804)の哲学を中心に、ドイツ近代哲学のドイツ語原典を講読することで、「近代」とはなにかを再考する契機とする。今回は、カントの小論「世界市民的見地における普遍史の理念」の訳読を行う。これは2021年度の秋学期からの継続になるが、今学期はカント歴史哲学の最も興味深い箇所を扱うことになる。この研究会では、原典をひたすら丁寧に読み抜くことによって、原典によってのみ接近可能になる哲学者の思考を追体験することを目的とする。したがって、ドイツ語をたくさん読むことは目標にしない。その意味で、ドイツ語初学者がドイツ語を学びながら参加することも可能な研究会にしたい。

使用文献

Idee zu einer allgemeinen Geschichte in weltbuergerlicher Absicht (1784) これは、「世界市民的見地における普遍史の理念」と訳されている、カントの小論である。

活動記録の内容、提出方法

研究会の時間内では、文献の訳読とその内容に関する議論を行う。評価は、授業回数のおよそ三分の二以上の出席を条件とし、訳読と議論への参加によって評価する。

受講者選考方法

受講者の選考は予定していない。意欲をもっていれば十分である。なお、受講を希望する学生は、あらかじめ担当教員にメール(mikoyuki@waseda.jp)でその旨を申し出ること。

備考

使用文献は担当教員がコピーを準備するので、購入する必要はない。はじめて参加する人は、当該論文を冒頭から第四命題まで邦訳で読んでおいてほしい。

春学期**無****その他****実施曜日・時限** 受講者と相談して決める
の特記事項**参加可能年次**

2年以上

主題

中国近現代文化の諸問題

担当教員

千野 拓政

研究概要

中国近現代文化に関する諸問題について、参加者が自分でテーマを決めて、研究を進める力を養成することを目的とする。各学生の興味を持つテーマがそれぞれ異なるため、参加者が自分の興味を抱いているテーマについて資料を読み、それを基礎に交代で発表し、全員で討論することを通して各自のテーマを深めていく方法を取る。発表の際に使用する資料はあらかじめ提示し、参加者全員が目を通してることが前提となる。授業ではその読解、問題点の提示、不明な箇所の確認を行うとともに、発表者のコメントについて討論を行う。そうした作業を通じて、通常の授業では扱えない原文資料の読解、吟味、検討を進める力などを養い、学生の研究能力を高めることを目指す。(すでに2012年年度秋期から勉強会の形で毎週実施しているが、学生が継続して実施することを強く希望していること、学年を越えて参加を希望する学生がいること、また学生の準備にかかる負担がかなりあることなどを考え、専門特殊研究として実施することを希望する。)

使用文献

発表者が準備する。一部は教員が提示する。

活動記録の内容、提出方法

毎回の発表ならびに学期末の提出してもらった研究活動報告によって評価する。

受講者選考方法

第1回目の授業で自分の興味のあるテーマとその研究について簡単なプレゼンテーションを行ってもらい、判断する。

備考

特に指定していないが、大学院進学を視野に入れている学生の希望によって始まった勉強会がもとになっている。今後も同様の希望を持つ学生が中心となると考えている。中文コースのクォーター化に伴い、学期によって開講時間を変更する可能性がある。

春学期～秋学期**火****7時限****実施曜日・時限** ※備考欄参照
の特記事項**参加可能年次**

2年以上

主題

満洲語文献講読

担当教員

柳澤 明

研究概要

清代前期(17～18世紀)において、満洲語は清帝国全体の公用語であり、とくに八旗と内陸アジア地域(東北・モンゴル・チベット等)に関しては、その重要性は漢語よりはるかに高かった。したがって、清代の歴史・文化を多面的に検討していくためには、満洲語の読解力が不可欠といえる。清朝最後の皇帝であった溥儀も、晩年「清史の研究には満洲語が不可欠だが、残念ながら自分は詳しくない」と語っていたという。テキストとして、本来は八旗制度に関する重要史料である東洋文庫所蔵「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」を使用する予定であったが、事情によりテキストの入手が難しいため、当面は「清代欽差駐庫倫辦事大臣衙門檔案檔冊彙編」を講読する。

使用文献

「清代欽差駐庫倫辦事大臣衙門檔案檔冊彙編」

活動記録の内容、提出方法

輪読形式でテキストを読み進めます。15回終了時点で、テキストの転写と和訳(各人の担当部分だけではなく、当該期間に講読したテキスト全体)、およびテキストの内容に関する簡単なレポートを提出してもらいます。

受講者選考方法

受講希望者は、4月12日(火)までに柳澤にメール(akiray@waseda.jp)で申し出てください。面談(状況によりオンラインで実施)の上、受講者を選考します。

備考

原則として隔週開講とし、春学期～秋学期を通して計15回行います。火曜7限に設定されていますが、受講者の授業スケジュール等に応じて、曜日・時限を調整することもあります。

秋学期**木****6時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

1年以上

主題

和歌テキスト原典講読(新古今研究会)2

担当教員

兼築 信行

研究概要

中古～中世の和歌テキストの原典を輪読する。対象作品は参加者と相談のうえ決定する。和歌読解の基本や、データベースなどツールの利用法についても手ほどきを行うので、研究の初心者も、和歌に関心がある人ならば、安心して参加して欲しい。

使用文献

すべてプリントにより提供する。

活動記録の内容、提出方法

輪読へ参加し、1回以上の発表、ならびに質疑や議論への参加を評価する。

受講者選考方法

担当教員宛にメール knck■waseda.jp(■=@)で申し込むこと。その際に、和歌に関する関心について記述して欲しい。原則として受講希望を拒否することはない。

備考**秋学期****金****2時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

フランス現代哲学(原典)講読

担当教員

西山 達也

研究概要

20世紀フランスを代表する哲学者エマニュエル・レヴィナス(1905-1995)のテキストをフランス語原典で講読する。レヴィナスはエドムント・フッサールによって創始された現象学がフランスに導入される際にきわめて重要な役割を果たした哲学者であるが、初期の思想から『全体性と無限』(1961年)に至るまでの思想変遷はこれまで十分に解明されてこなかった。近年、1940-50年代の草稿群が刊行されるなどして、レヴィナス哲学の新たな姿が明らかになりつつある。本研究では、レヴィナスが第二次世界大戦後に自らの哲学的マニフェストとして刊行した著作である『実存から実存者へ』を熟読することで、この哲学者の思考に入門するとともに、フランス語で哲学することの愉しみを共有したい。

使用文献

De l'existence à l'existant [1947], Vrin, Edition de poche, 2013

活動記録の内容、提出方法

参加者各自が作成した翻訳を持ち寄り、比較、検討、解釈する。授業への積極的な参加が単位習得の条件となる。

受講者選考方法

受講希望者は秋学期授業開始第1週の金曜日までに参加を希望するというメールを以下のアドレス宛に送付すること。メールアドレス:t-nishiyama@waseda.jp

備考

秋学期**金****3時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

ドイツ近代哲学(原典)講読

担当教員

御子柴 善之

研究概要

イマヌエル・カント(1724-1804)の哲学を中心に、ドイツ近代哲学のドイツ語原典を講読することで、「近代」とはなにかを再考する契機とする。今学期は、カントの名著『純粹理性批判』から「超越論的弁証論」の訳読を行う。これは長大な箇所なので、どこを取り上げて検討するかは参加者の希望によって決定する。この研究会では、原典をひたすら丁寧に読み抜くことによって、原典によってのみ接近可能になる哲学者の思考を追体験することを目的とする。したがって、ドイツ語をたくさん読むことは目標にしない。その意味で、ドイツ語初学者がドイツ語を学びながら参加することも可能な研究会にしたい。

使用文献

Kritik der reinen Vernunft(A:1781,B:1787)

活動記録の内容、提出方法

研究会の時間内では、文献の訳読とその内容にかんする議論を行う。評価は、授業回数の三分の二以上の出席を条件とし、訳読と議論への参加によって評価する。

受講者選考方法

受講者の選考は予定していない。意欲をもっていれば十分である。なお、受講を希望する学生は、あらかじめ担当教員にメール(mikoyuki@waseda.jp)でその旨を申し出ること。

備考

使用文献は担当教員がコピーを準備するので、購入する必要はない。購入する人は、Philosophische Bibliothekのものを購入することをお薦めする。

秋学期**無****その他****実施曜日・時限
の特記事項** **受講者と相談して決める****参加可能年次**

2年以上

主題

中国近現代文化の諸問題

担当教員

千野 拓政

研究概要

中国近現代文化に関する諸問題について、参加者が自分でテーマを決めて、研究を進める力を養成することを目的とする。各学生の興味を持つテーマがそれぞれ異なるため、参加者が自分の興味を抱いているテーマについて資料を読み、それを基礎に交代で発表し、全員で討論することを通して各自のテーマを深めていく方法を取る。発表の際に使用する資料はあらかじめ提示し、参加者全員が目を通してることが前提となる。授業ではその読解、問題点の提示、不明な箇所の確認を行うとともに、発表者のコメントについて討論を行う。そうした作業を通じて、通常の授業では扱えない原文資料の読解、吟味、検討を進める力などを養い、学生の研究能力を高めることを目指す。(すでに2012年年度秋期から勉強会の形で毎週実施しているが、学生が継続して実施することを強く希望していること、学年を越えて参加を希望する学生がいること、また学生の準備にかける負担がかなりあることなどを考え、専門特殊研究として実施することを希望する。)

使用文献

発表者が準備する。一部は教員が提示する。

活動記録の内容、提出方法

毎回の発表ならびに学期末の提出してもらう研究活動報告によって評価する。

受講者選考方法

第1回目の授業で自分の興味のあるテーマとその研究について簡単なプレゼンテーションを行ってもらい、判断する。

備考

特に指定していないが、大学院進学を視野に入れている学生の希望によって始まった勉強会がもとになっている。今後も同様の希望を持つ学生が中心となると考えている。中文コースのクォーター化に伴い、学期によって開講時間を変更する可能性がある。

秋学期～春学期**火****7時限****実施曜日・時限
の特記事項****2022年秋学期は7時限だが、2023
年春学期の曜日時限は未定。****参加可能年次**

2年以上

主題

満洲語文献講読

担当教員

柳澤 明

研究概要

清代前期(17～18世紀)において、満洲語は清帝国全体の公用語であり、とくに八旗と内陸アジア地域(東北・モンゴル・チベット等)に関しては、その重要性は漢語よりはるかに高かった。したがって、清代の歴史・文化を多面的に検討していくためには、満洲語の読解力が不可欠といえる。清朝最後の皇帝であった溥儀も、晩年「清史の研究には満洲語が不可欠だが、残念ながら自分は詳しくない」と語っていたという。テキストとして、八旗制度に関する重要史料である東洋文庫所蔵「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」を使用する予定であるが、テキストの入手可否等の状況によっては、春学期に引き続き「清代欽差駐庫倫辦事大臣衙門檔案檔冊彙編」を講読する可能性もある。

使用文献

「清代欽差駐庫倫辦事大臣衙門檔案檔冊彙編」

活動記録の内容、提出方法

輪読形式でテキストを読み進めます。15回終了時点で、テキストの転写と和訳(各人の担当部分だけではなく、当該期間に講読したテキスト全体)、およびテキストの内容に関する簡単なレポートを提出してもらいます。

受講者選考方法

受講希望者は、10月11日(火)までに柳澤にメール(akiray@waseda.jp)で申し出てください。面談(状況によりオンラインで実施)の上、受講者を選考します。

備考

原則として隔週開講とし、秋学期～2023年春学期を通して計15回行います。2022年秋学期は火曜7時に設定されていますが、受講者の授業スケジュール等に応じて、曜日・時限を調整することもあります。なお、2023年度春学期の曜日・時限は未定です。

以 上